

2019年8月期 第1四半期決算短信(日本基準)(連結)

2019年1月9日

上場会社名 株式会社AFC-HDアムスライフサイエンス
 コード番号 2927 URL <https://www.ams-life.com/>

上場取引所 東

代表者 (役職名) 代表取締役 (氏名) 浅山雄彦
 問合せ先責任者 (役職名) 社長室長 (氏名) 土屋昭弘

TEL 054-281-5238

四半期報告書提出予定日 2019年1月11日

配当支払開始予定日

四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 2019年8月期第1四半期の連結業績(2018年9月1日～2018年11月30日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年8月期第1四半期	4,261	10.8	330	23.0	353	35.6	227	27.9
2018年8月期第1四半期	3,844	6.5	269	6.6	260	5.1	177	66.7

(注) 包括利益 2019年8月期第1四半期 233百万円 (27.9%) 2018年8月期第1四半期 182百万円 (53.8%)

	1株当たり四半期純利益	潜在株式調整後1株当たり四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年8月期第1四半期	16.15	
2018年8月期第1四半期	14.66	

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2019年8月期第1四半期	18,283	9,745	53.3
2018年8月期	18,007	9,652	53.6

(参考) 自己資本 2019年8月期第1四半期 9,745百万円 2018年8月期 9,652百万円

(注) 『税効果会計に係る会計基準』の一部改正(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、2018年8月期の連結財政状態は、当該会計基準等を遡及適用後の数値となっております。

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年8月期		10.00		10.00	20.00
2019年8月期					
2019年8月期(予想)		10.00		10.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2019年8月期の連結業績予想(2018年9月1日～2019年8月31日)

(%表示は、通期は対前期、四半期は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
第2四半期(累計)	7,950	2.9	500	3.2	500	0.8	400	18.0	28.44
通期	16,000	1.3	1,050	2.6	1,030	4.9	770	4.5	54.75

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動) : 無
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- | | |
|--------------------|-----|
| 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 | : 無 |
| 以外の会計方針の変更 | : 無 |
| 会計上の見積りの変更 | : 無 |
| 修正再表示 | : 無 |

(4) 発行済株式数(普通株式)

期末発行済株式数(自己株式を含む)	2019年8月期1Q	14,144,720 株	2018年8月期	14,144,720 株
期末自己株式数	2019年8月期1Q	80,969 株	2018年8月期	80,969 株
期中平均株式数(四半期累計)	2019年8月期1Q	14,063,751 株	2018年8月期1Q	12,108,751 株

四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績の見通し等将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。なお、業績予想に関する事項は、四半期決算短信の添付資料3ページ「(3)連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等)	8
(追加情報)	9

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第1四半期連結累計期間におけるわが国の経済は、堅調な企業収益、雇用・所得環境の改善により個人消費に持ち直しの動きが見られるなど緩やかな回復基調が続きました。

当社グループが属する健康食品市場は、機能性表示食品の増加などにより、緩やかな成長基調を維持しております。定番素材の青汁や乳酸菌が好調に推移するほか、スポーツニュートリション市場が活発化しており、主力ユーザーである中高年齢層に加え、若年層への広がりも見られました。

このような状況の下当社グループでは、基幹事業であるOEM部門が前期に引き続き好調を維持したほか、海外販売部門の売上高が前年同期比2桁増となったことが寄与し、当第1四半期の連結売上高は4,261百万円（前年同期比10.8%増）、営業利益は330百万円（前年同期比23.0%増）、経常利益は353百万円（前年同期比35.6%増）、親会社株主に帰属する四半期純利益は227百万円（前年同期比27.9%増）となりました。

セグメントの業績を示すと、次のとおりであります。

①ヘルスケア事業

・OEM部門

当社グループの基幹事業である当部門は、青汁や粉末茶が定番商材として好調を維持したほか、乳酸菌関連の商材が伸長いたしました。さらに、美容商材であるプラセンタ商品も堅調に推移いたしました。その結果、当部門の売上高は前年同期比2桁増となりました。

・海外部門

アジア地域を主な取引先とする当部門は、シンガポールならびにベトナムのOEM顧客において美容商材が伸長いたしました。また、韓国のAFC代理店において通販事業の好調により受注が順調に推移いたしました。その結果、当部門の売上高は前年同期比2桁増となりました。

・通信販売部門

本年1月に新発売した口臭予防の歯磨き粉『オーラプロ歯磨きジェル』ならびに、本年8月に新発売した膝や腰に塗るグルコサミン配合のクリーム『ぬるアミノグルコ』が購入者の好反応を受けて、販売促進活動を強化し受注が伸長いたしました。また、チェーンドラッグストアとの共同企画においても積極的な新聞広告の投下により好調に推移いたしました。しかしながら、ネット広告市場の変化などが影響しネット受注が伸び悩んだことにより、当部門の売上高を伸ばすには至りませんでした。

・卸販売部門

販路拡大及び販売強化を目的として積極的に展示会や販売会へ出展いたしました。また、ネット販売事業者から『ダイエットサプリ』の受注が伸長いたしました。しかしながら、定番人気商品が苦戦したことにより、当部門の売上高は前年同期を下回りました。

・店舗販売部門

百貨店主催の催事に積極的に出展したほか、セミナーや相談会を展開いたしました。また、人気商材『ラ・ヴィ・プラセンタ』が販売強化により伸長したほか、本年5月に新発売した『RICHアミノ3000』が、近年注目を集めている筋肉増強やロコモティブシンドローム対策の流れを受けて好調な売れ行きとなりました。しかしながら、店舗数の減少による影響を補い切れず、当部門の売上高は前年同期を下回りました。

以上の結果、ヘルスケア事業の業績は、売上高3,945百万円（前年同期比10.4%増）、営業利益449百万円（前年同期比9.4%増）（全社費用調整前）となりました。

②医薬品事業

医薬品市場は、大別して医師の処方箋に基づき病院・診療所、調剤薬局で購入する医療用医薬品市場と、医師の処方箋が要らず、ドラッグストアで購入する一般用医薬品市場に分けられます。

医療用医薬品事業は、昨年11月に自社製造販売を開始した医療用ジェネリック医薬品の『ピムロ顆粒』（センナ下剤）を筆頭に『シルデナフィル錠』（勃起改善薬）、『フィナステリド錠』（AGA治療薬）の拡販に努めました。

一般用医薬品事業につきましては、前期に引き続き新規設備を使用した新商品開発及び承認申請に取り組みました。

以上の結果、医薬品事業の業績は、売上高が315百万円（前期比16.4%増）となったものの、ジェネリック医薬品製造設備の減価償却費が増加したことなどにより、営業損失15百万円（前年同期は27百万円の営業損失）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①流動資産

当第1四半期連結会計期間末における流動資産合計は、前連結会計年度末に比べ383百万円増加し、9,505百万円となりました。この増加要因は主として、現金及び預金が96百万円減少した反面、受取手形及び売掛金が218百万円、流動資産のその他が143百万円、原材料及び貯蔵品が132百万円増加したことによるものであります。

②固定資産

当第1四半期連結会計期間末における固定資産合計は、前連結会計年度末に比べ108百万円減少し、8,777百万円となりました。この減少要因は主として、子会社の物流倉庫移転に伴う改装費を建設仮勘定に計上した影響などにより、有形固定資産全体で64百万円増加した反面、投資その他の資産のその他が206百万円減少したことによるものであります。

③流動負債

当第1四半期連結会計期間末における流動負債合計は、前連結会計年度末に比べ229百万円増加し、6,470百万円となりました。この増加要因は主として、返済により短期借入金73百万円減少したことや、未払法人税等が64百万円減少した反面、流動負債のその他が179百万円、支払手形及び買掛金が152百万円増加したことによるものであります。

④固定負債

当第1四半期連結会計期間末における固定負債合計は、前連結会計年度末に比べ46百万円減少し、2,067百万円となりました。この減少要因は主として、返済により長期借入金34百万円減少したことに加え、固定負債のその他が19百万円減少したことによるものであります。

⑤純資産

当第1四半期連結会計期間末における純資産合計は、前連結会計年度末に比べ92百万円増加し、9,745百万円となりました。この増加要因は、親会社株主に帰属する四半期純利益の計上により利益剰余金が86百万円増加したことによるものであります。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、2018年10月9日の「2019年8月期 決算短信」で公表いたしました第2四半期連結累計期間及び通期の連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2018年8月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2018年11月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,079,507	3,982,864
受取手形及び売掛金	2,058,065	2,276,272
商品及び製品	1,066,864	1,047,158
仕掛品	870,670	877,145
原材料及び貯蔵品	873,082	1,005,368
その他	185,862	329,382
貸倒引当金	△12,233	△12,661
流動資産合計	9,121,818	9,505,530
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	2,940,298	2,914,648
土地	4,088,766	4,088,766
その他(純額)	1,035,343	1,125,126
有形固定資産合計	8,064,408	8,128,541
無形固定資産		
のれん	2,040	1,785
その他	93,236	92,394
無形固定資産合計	95,277	94,180
投資その他の資産		
その他	788,840	582,017
貸倒引当金	△62,623	△27,046
投資その他の資産合計	726,216	554,970
固定資産合計	8,885,902	8,777,691
資産合計	18,007,721	18,283,222
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,005,461	2,158,425
短期借入金	2,873,581	2,800,281
未払法人税等	202,668	138,640
賞与引当金	149,900	182,673
ポイント引当金	18,139	20,322
その他	991,089	1,170,092
流動負債合計	6,240,839	6,470,434
固定負債		
長期借入金	1,316,728	1,282,291
役員退職慰労引当金	164,995	168,871
退職給付に係る負債	299,297	303,293
負ののれん	1,689	1,549
その他	331,185	311,298
固定負債合計	2,113,895	2,067,303
負債合計	8,354,734	8,537,737

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2018年8月31日)	当第1四半期連結会計期間 (2018年11月30日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	2,131,839	2,131,839
資本剰余金	2,195,880	2,195,880
利益剰余金	5,411,873	5,498,346
自己株式	△59,284	△59,284
株主資本合計	9,680,309	9,766,782
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△27,322	△21,297
その他の包括利益累計額合計	△27,322	△21,297
純資産合計	9,652,986	9,745,484
負債純資産合計	18,007,721	18,283,222

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

四半期連結損益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自2017年9月1日 至2017年11月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自2018年9月1日 至2018年11月30日)
売上高	3,844,891	4,261,072
売上原価	2,703,045	3,050,768
売上総利益	1,141,846	1,210,303
販売費及び一般管理費	872,836	879,344
営業利益	269,009	330,959
営業外収益		
受取利息	13	14
受取配当金	1,915	4,950
投資有価証券売却益	480	18,981
受取賃貸料	5,362	5,203
負ののれん償却額	140	140
その他	2,820	4,996
営業外収益合計	10,733	34,287
営業外費用		
支払利息	16,187	9,677
その他	2,879	1,970
営業外費用合計	19,066	11,647
経常利益	260,676	353,599
特別損失		
固定資産除却損	—	0
特別損失合計	—	0
税金等調整前四半期純利益	260,676	353,599
法人税、住民税及び事業税	96,498	120,897
法人税等調整額	△13,386	5,590
法人税等合計	83,111	126,488
四半期純利益	177,564	227,110
親会社株主に帰属する四半期純利益	177,564	227,110

四半期連結包括利益計算書

第1四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第1四半期連結累計期間 (自 2017年9月1日 至 2017年11月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自 2018年9月1日 至 2018年11月30日)
四半期純利益	177,564	227,110
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	4,762	6,025
その他の包括利益合計	4,762	6,025
四半期包括利益	182,327	233,135
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	182,327	233,135
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

I 前第1四半期連結累計期間(自 2017年9月1日 至 2017年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		合計
	ヘルスケア事業	医薬品事業	
売上高			
外部顧客への売上高	3,574,055	270,836	3,844,891
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—
計	3,574,055	270,836	3,844,891
セグメント利益又は損失(△)	411,114	△27,966	383,147

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	383,147
全社費用(注)	△114,138
四半期連結損益計算書の営業利益	269,009

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当第1四半期連結累計期間(自 2018年9月1日 至 2018年11月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント		合計
	ヘルスケア事業	医薬品事業	
売上高			
外部顧客への売上高	3,945,932	315,139	4,261,072
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—
計	3,945,932	315,139	4,261,072
セグメント利益又は損失(△)	449,755	△15,037	434,718

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容
(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	434,718
全社費用(注)	△103,758
四半期連結損益計算書の営業利益	330,959

(注)全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報
該当事項はありません。

(追加情報)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 2018年2月16日)等を当第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。